

信州大学知の森基金を活用したグローバル人材育成のための短期学生海外派遣プログラム
実施状況および成果

プログラム名	夏期海外研修シンガポール保健医療スタディツアー	
学部・研究科名	医学部	
実施期間	2016年8月19日～8月28日	
研修先(国・都市・施設名)	シンガポール・シンガポール総合病院	
参加者数	14名	知の森基金からの支援者：10名
プログラム概要	信州大学医学部は平成25年にシンガポール総合病院(SGH)と学術協定を締結し、夏期に医学部保健学科の学生が国際研修プログラムに参加している。本プログラムでは、シンガポール総合病院およびその他の医療系大学、専門学校、病院の見学・実習を通して、アジアの先進国であるシンガポールの医療および医学教育の現場を学ぶことができる。平成28年度の本プログラムではシンガポール総合病院、シンガポール技術学校(SIT)、ナンヤン・ポリテクニク(NYP)、ブライト・ビジョン病院(BVH)にて研修を行った。シンガポール総合病院での本プログラムは、信州大学医学部保健学科全専攻、全学年(看護学、検査技術科学、作業療法学、理学療法学)の学生が参加可能である。	

実施状況・成果

◆主な研修先

SGH: Singapore General Hospital、SIT: Singapore Institute of Technology、BVH: Bright Vision Hospital、NYP: Nanyang Polytechnic、School of Health Science

◆参加人数

看護3名(3年生3名)、検査技術8名(2年生1名・3年生7名)、理学療法(3年生3名)、合計14名

◆成果

SGHでは2日間の研修を行い、1日目は全員で院内の見学を行った。2日目は各専攻ごとにそれぞれが深く関わる部所にて研修を行った。実際に病棟や外来の現場を見学させていただき、患者に対する面接、治療、看護、リハビリテーションの様子を知ることができた。

SIT、NYPでは医療教育、研究の現場の見学を行った。手術室やヒト型患者ロボットによるシミュレーション教育や、リハビリテーション教育のためのシミュレーション部屋など、最新の医療教育施設を見学できた。BVHでは、市中病院でのリハビリテーション医療を見学することができた。一連の研修を通して、シンガポールにおける高水準の医学教育、医療に触れることができ、国際的な視点を身につけることができた。

学生の声①ー医学部・保健学科 学生

SGHが最も印象に残りました。SGHでは生徒1人につき1人の理学療法士(PT)について頂いて見学することができました。PTの方との距離が近く、質問も比較的気楽に行うことができ、よかったです。外来と入院患者の両方を見れたことも良かったです。施設の方も聞き取りやすいようにゆっくりはっきり話してくれる方が多く助かりました。様々な質問にも丁寧に答えていただけてよかったです。妊婦のPTを見ている人もいたので私も見てみたかったとは思いました。

学生の声②ー医学部・保健学科 学生

SGHで専攻ごとに分かれて病院内を見学した際、一日ついて回ってくださったスタッフの方がとても丁寧だった。私たちが聞き取れるようにゆっくり話そうに心がけてくれたり、わからない専門用語を別の言葉で説明してくれたり、私たちの拙い英語を理解しようと努力してくれたり、ずっと笑顔で対応してくれた。シンガポールと日本の医療の違いについて目で見て、肌で感じることが出来た。また、英語に囲まれた日常の中で生活することにより、自身の英語力を実感することが出来た。「英語をもっと話せるようになりたい」「英語を勉強しなくてはならない」と強く感じ、今後の勉学に大きな影響を与えることが出来たと感じている。

SGHの先生方と



NYPにて手術シミュレーション室の見学

